

著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
1 (総説) 特集「感性計測評価」 喚起感情の心理生理学的計測と評価 《筆頭論文》	共著	2012年6月	感性工学, Vol.11、No.1, pp.10-14. 日本感性工学会	感性計測評価部会が感性計測評価についての解説論文を特集することになった。そこで人の感情状態をダイナミックに計測するための生理計測法について解説をおこなった。 (5頁) (岩城達也)
2 (学術論文) Application of the emotional S1-S2 paradigm for evaluating kansei information using brain potentials 《筆頭論文》	共著	2012年12月	Kansei Engineering International Journal Vol.11, No. 4, pp.217~223. 日本感性工学会	感性ワードを用いて製品を評価する感性工学手法を、事象関連電位を用いたパラダイムに適用した。脳活動から、製品に対する接近(見たい)や自分が期待した通りのものであったかを、事象関連電位の成分によって評価可能であることを確認した。担当部分:共同研究につき本人担当部分抽出不可能。(7頁) (岩城 達也、北川優大)
3 (学術論文) 幼児図式における眼の特徴表現と可愛らしさ知覚 《筆頭論文》	共著	2014年3月	広島国際大学心理学部紀要 Vol.1, No.1, pp.15-24.	幼児図式が可愛らしさ知覚をもたらすことが知られている。この研究では幼児図式における眼の特徴が可愛らしさ知覚に及ぼす影響を検討した。その結果、可愛らしさ知覚には知覚に敏感な物理量があり、対象が写真か、漫画かなどの現実性によって、その量が変化することが分かった。担当部分:共同研究につき本人担当部分抽出不可能。(10頁) (岩城達也・宮崎龍二)
4 (学術論文) 匂い刺激提示に伴う快不快評価に関連した前頭部脳波活動の探索 《筆頭論文》	単著	2014年8月	Aroma Research, 2014, 15(3), 30-35.	匂い刺激に伴う快不快感情の時間的推移について、主観及び生理指標を用いて検討した。匂いサンプルは快刺激としてバニリン、不快刺激としてn 酪産、これらの混合の計3種類を用意した。継時的な主観感情強度評価では、刺激に共通して匂いに伴う感情強度は提示後5~20秒程度でピークを迎えた。感情喚起フェイズの脳波α波のマイクロステイ分析からは、左右前頭部に特徴をもつマップパターンが快不快感情と関係していると考えられた。(6頁) (岩城達也)
5 (学術論文) 直感的インタフェースデザイン の設計論の基礎的考察 －体制化と親近性の視点からのアプローチ	共著	2014年12月	日本感性工学会論文誌 Vol. 13, No. 5, pp.543-554	直観的インターフェースデザインについて、行為の流れを3つの体制化と3つの親近性の視点で分析し、デザインの基本的枠組みを提示した。基本的な枠組みとは、1)直観的インターフェースの意味の明確化、2)体系的な分析視点とデザイン指針の提案、3)ユーザーのインターフェース能力に即した柔軟なデザイン手法の提案であり、これらの考え方から主にタッチパネル型の直観的インターフェースデザイン提案に至った。担当部分:直観的インターフェースにおける直観の認知心理学的理解。(12頁) (広川 美津雄, 井上 勝雄, 岩城 達也, 加島 智子)